レーザー生成プラズマの膨張ダイナミクス ~大規模粒子シミュレーションと3次元可視化~

ぬなみ まさのり 沼波政倫

大阪大学レーザーエネルギー学研究センター

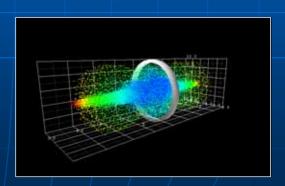
Contents

3D-PIC Simulation

- Introduction
- · Physics
- Simulation
- · Results & Summary

HPFEついて

RCM Systemについて



照明光学系





Introduction

<u>極端紫外線(EUV)リソグラフィー</u>

・・・・半導体デバイス用の次世代縮小投影リソグラフィー

<u>レーザー生成プラズマ(LPP)光源</u>

・・・・スズ(Sn)ターゲットにレーザーを照射し、生成された プラズマからの極端紫外放射光(=13.5nm)を利用

<u>高エネルギーイオンデブリ</u>



高エネルギーイオンによる集光ミラーの損傷!

· 付着

CB.

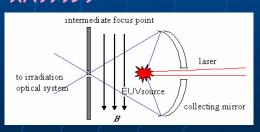
Λ=13.5nm

スパッタリング



磁場シールド

外部磁場によりイオンを制御







熱せられた電子が膨張 電場形成 イオンが加速

荷電粒子のラーマー運動

磁場中の荷電粒子・・・磁力線の周りを旋回運動(ラーマー運動)する。

ラーマー半径 ... $R_{\mathsf{L}} = v/\omega_{\mathsf{C}\mathsf{i}} = \sqrt{2m_i E}/(ZeB)$

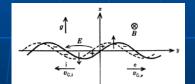
(例)1価のスズ(Sn)の場合

$$\begin{cases} B=1 \text{ [T]} \\ E_{\text{max}}=10 \text{ [keV]} \end{cases} \qquad R_{\text{Li}}=11 \text{ [cm]}$$





 $R_{\rm Le} < R_0 < R_{\rm Li}$ 局所的に形成された電場に伴う E×Bドリフトにより擾乱が成長



hot electrons

レーザー生成プラズマの磁場中での膨張ダイナミクスを 粒子シミュレーション(PIC法)により解析する

平成19年度スーパーコンピュータシンポジウム 2007年8月3日 @大阪大学





Simulation (1/3)

PIC (Particle in cell) 法



運動方程式の計算

 $F_i \rightarrow v_i \rightarrow x_i$



 $(E_i, B_i) \rightarrow F_i$

電荷・電流密度の計算

 $(x_i, v_i) \rightarrow (\rho_i, J_i)$



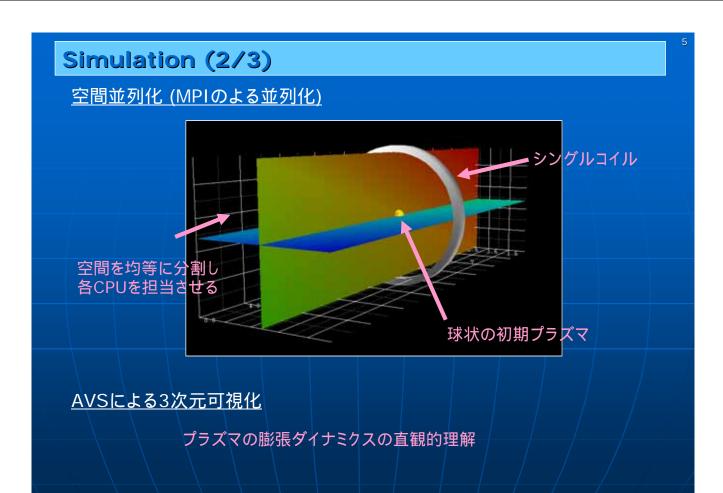
マクスウェル方程式の計算

 $(\rho_i, J_i) \rightarrow (E_i, B_i)$



粒子と電場・磁場の時間発展をダイレクトに解くことが可能





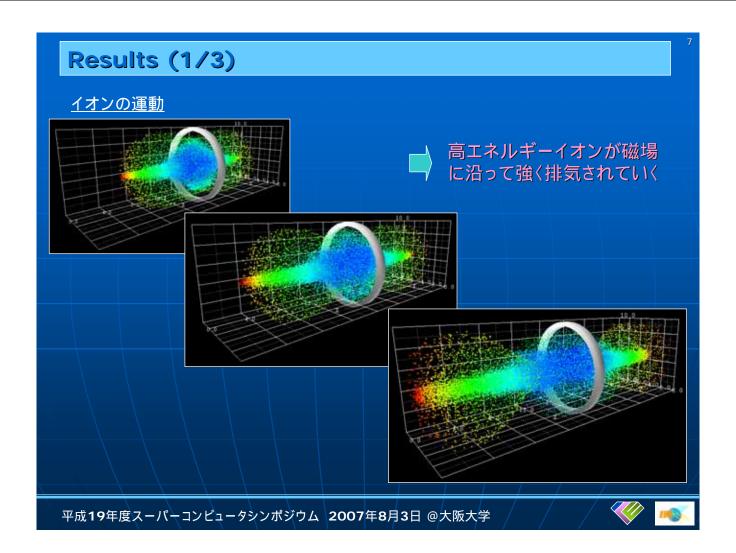
Simulation (3/3)

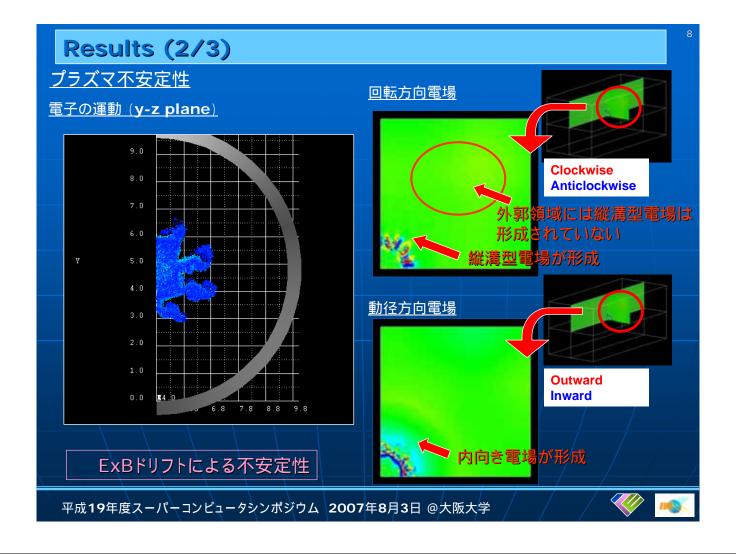
シミュレーション条件

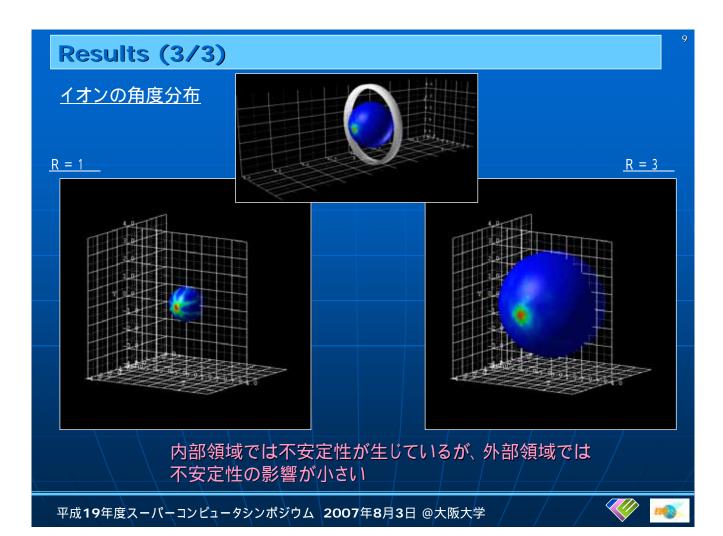
初期プラズマ形状	$R/\lambda_{D}=62$ の半径の球状ドロップレット
粒子種類	電子と1価イオンをそれぞれ約60万~1600万個配置
質量比	$m_{j}/m_{e}=100$
初期速度分布	<u>電子にのみ</u> $m_ec^2/kv_T=17$ の熱速度のマクスウェル分布
比	磁気軸上で $eta=p/p_B\sim 12$ となる磁場を用意



平成19年度スーパーコンピュータシンポジウム 2007年8月3日 @大阪大学







Summary

10

- LPP-EUV光源プラズマからの高エネルギーイオンデブリ
 - ・最大10keVにも及ぶ高速イオンの集光ミラーへの損傷が懸念
 - ・磁場によるイオンデブリの排気の可能性
- 磁場中でのレーザー生成プラズマの膨張
 - ・直径20cmに及ぶイオンラーマー運動
 - ・E×Bドリフトによる不安定性の成長
- 3D-PICシミュレーション結果
 - ・磁気軸方向へ高速イオンがよく排気されている
 - ・ 交換型不安定性は内部領域で発生
 - ・集光ミラーの配置へのSuggestion

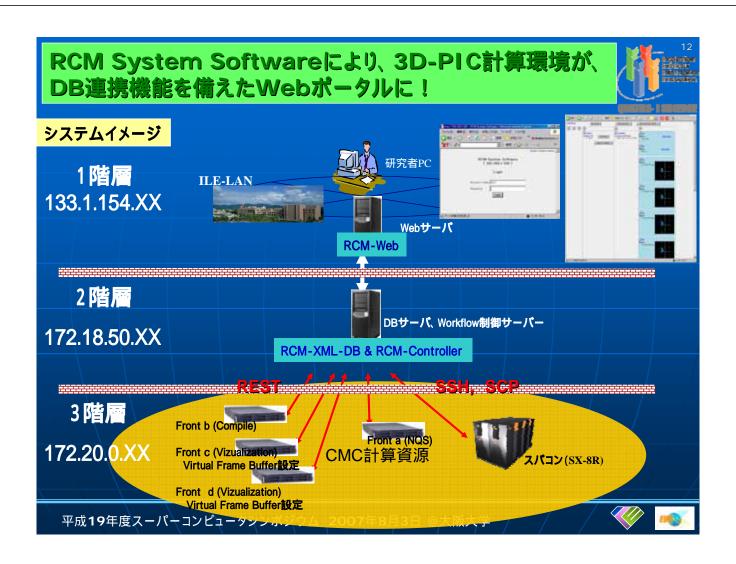


● 殆どの参加者が直ぐにコードを書き換えてHPFで動かすことができた。 HPF推進協議会による冊子を興味のある方には配布します。

平成19年度スーパーコンピュータシンポジウム 2007年8月3日 @大阪大学







ポータル化されたシステムは、DBと連携し、ブラウザ上で 様々なユーザー支援を実現



- 1)コンパイルエラー修正フェーズのコード開発支援Workflow機能 ソース転送 コンパイル ソース、コンパイル結果の自動データベース化
- 2)実行エラー修正フェーズのコード開発支援Workflow機能

実行入力値設定、実行ファイル選択 入力ファイル転送 コンパイル 実行 実行結果のe-mail結果通知 実行入力値、結果の自動データベース化

3)シミュレーション・可視化(AVS)自動実行Workflow機能

実行入力値設定、実行形式ファイル選択 実行形式、入力ファイル転送 シミュレーション実行 シミュレーション途中経過e-mail通知 結果データ可視化 可視化途中経過e-mail通知 実行入力値、結果データ、可視化パラメータ、可視化データの自動データベース化

4) 一括batch再可視化(AVS) Workflow 機能

再可視化パラメーター値、再可視化対象ファイル設定 batch型再可視化実行(VFB利用) 可視化途中経過 e-mail 通知 可視化パラメータ、可視化データの自動データベース化

5)過去データ検索、派生関係表示機能

様々な作業を通してデータベースに蓄積された、日時、ファイル名、パラメータ値をもとに、 過去のシミュレーション設定やファイル、それらのデータ間の派生関係(このjpegは、どの rawデータからどのような可視化パラメータで作られたか)が検索、表示できる。

平成19年度スーパーコンピュータシンポジウム 2007年8月3日 @大阪大学





研究者を単純・繰り返し業務から開放し、研究時間を増大 させることと、研究の品質管理/品質保証向上を両立!



DB連携Workflow機能

現状

沢山のデータをグラフ化し、 比較データを探し、資料作 成するのは手間がかかる



システム化後

データベースと連動したワークフロー機能で、シミュレーションも可視化もボタンひとつで自動処理、DB化により結果検索も簡単!

モチペーションと効率化のスパイラル



